

高山 四十九所神社の流鏝馬

【所在地】肝属郡肝付町新富 四十九所神社（（四十九所神社）流鏝馬保存会）

【種別】県指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和 56 年 3 月 27 日



毎年 10 月第 3 日曜日（もとは旧暦 9 月 16 日），高山町新富麓の四十九所神社に奉納される。神社の前の長さ 330m の馬場に立てられた 3 本の的を，走る馬上から弓で射るもので，これを 3 回くり返し合計 9 本を射る。

射手は昔は麓郷土の 15 歳の男子から選ばれるものであったが，現在は地元の中学 2 年生の中から選出している。以前は 2 騎手走ったこともあった。

射手に選ばれた少年は，1 ヶ月ほど前から稽古を始め，1 週間前から「宮ごもり」をして精進潔斎をし，2 日前になると東串良町柏原の海岸に「シオガケ」に行く。

当日は，朝の神事のあと，射手は神社から「真弓」を受領し，弓と矢を捧げて騎手として町内を一巡する。終って社殿の前で 3 回まわってから，馬場を走りぬけ，3 つの的に次々と矢を放つ。これを 3 回くり返すのである。多く命中した年は豊作というが，九発全部命中することは忌む。

りりしく化粧した若者が，綾藺笠をかぶり，直垂，行騰姿で，馬を走らせながら弓弦の音を響かせるさまは，まさに戦国絵巻を見るような情景である。